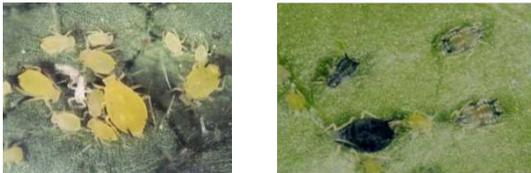


ワタアブラムシのネオニコチノイド剤抵抗性発達状況

和歌山県農業試験場 岡本 崇

ネオニコチノイド系殺虫剤はアブラムシ類の主な防除薬剤として使用されています。しかし和歌山県において、2013年以降ワタアブラムシに対して効果が低いとの情報が寄せられるようになり、調査を行った結果ネオニコチノイド剤の効果が低いワタアブラムシが県内各地で見つかりました。今後はネオニコチノイド剤の使用に注意をはらうとともに、アブラムシ対策の見直しが必要となります。

○ワタアブラムシとは



- ・成虫の体長は約1.2mm。
- ・体色は黒、緑、黄色と変化に富む。
- ・ウリ科、ナス科、イチゴ、カスミソウ等に寄生。
- ・吸汁加害およびすす病を発生させる。
- ・キュウリモザイクウイルス、ズッキーニ黄斑モザイクウイルス等のウイルス病を媒介。

○各産地のアブラムシ類防除薬剤

和歌山県のほとんどの産地において、ネオニコチノイド系殺虫剤(赤字)がアブラムシの基幹的防除剤として使用されています。

ピーマン…ベストガード、アドマイヤー、チェスシントウ…モスピラン、アルバリン/スタークル
 ナス…アルバリン/スタークル、アグロスリン
 スイカ…アドマイヤー、モスピラン
 キュウリ…アルバリン/スタークル、モスピラン
 イチゴ…モスピラン、チェス、ウララ

○ワタアブラムシに対する薬剤の効果

モスピラン以外のネオニコチノイド剤の効果が低いという結果(図1)となりましたが、モスピランも4000倍、8000倍の濃度では効果が低かったです(図2)。

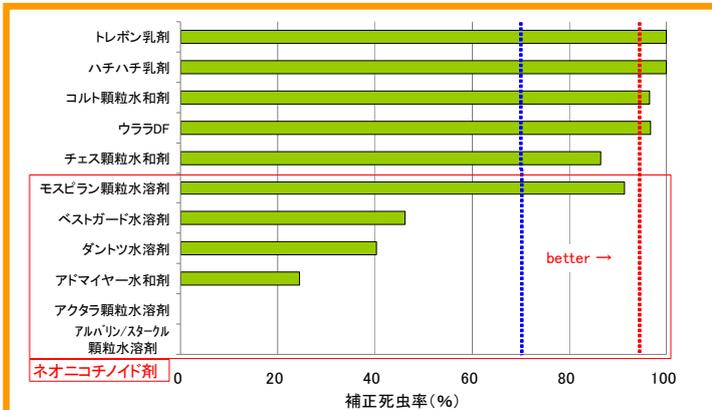


図1 ワタアブラムシ(広川町、シントウ)に対するネオニコチノイド系薬剤等の殺虫効果(幼苗検定法)

注)補正死虫率:値が高いほど効果が高い。
95%以上を殺虫効果が高い、70%以下を低いと判断した。

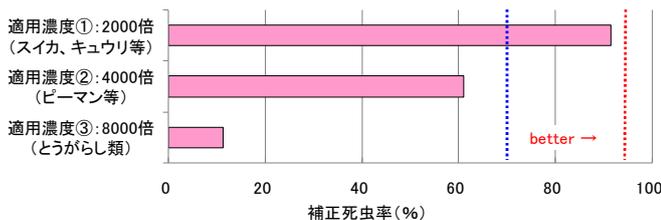


図2 ワタアブラムシ(広川町、シントウ)に対するモスピラン顆粒水溶剤の殺虫効果(幼苗検定法)

○県内の発生状況

和歌山市、橋本市、紀の川市、有田川町、広川町、御坊市、美浜町、印南町で発生が確認されました(図3)。ほとんどの地域でネオニコチノイド剤で防除ができるワタアブラムシと防除が出来ないものが混在している状況です。

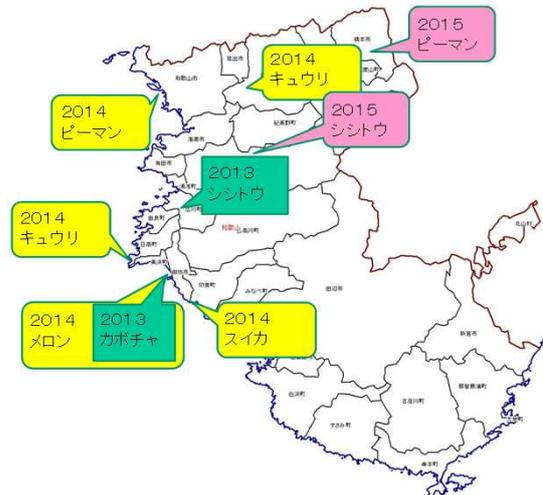


図3 県内のネオニコチノイド低感受性個体群発生状況
注)数値は調査年度

対策

①効果が高い薬剤のローテーション散布

※一部地域ではトレボン乳剤の効きにくいワタアブラムシも確認されているため合成ピレスロイド剤の使用には注意してください。

②防虫ネット(0.8mm目以下)等の物理的防除の導入